

目 次

日本語版への序文

第31版序文

凡 例

第 1 章 序	1	I
I. 本書の概要について	1	I
II. 基本権という素材に伴ういくつかの困難な問題	4	I
III. 基本権に関する事例の解決について	9	3

第 Ⅰ 部 基本権総論

第 2 章 基本権の歴史と概念	18	9
I. 序	18	9
II. 北アメリカとフランスの基本権	20	9
III. 19世紀のドイツ立憲主義の基本権	26	11
IV. ワイマール憲法の基本権	36	14
V. 基本法の下での基本権の展開	40	15
VI. 基本権の概念	43	16
VII. 超国家的な基本権規範	46	17
第 3 章 基本権保護の多元的制度	51	20
I. 普遍的な国際慣習法	56	21
II. 普遍的な人権条約	57	22
III. 地域的人権保障——欧州人権条約	66	25
IV. 超国家的な人権保障——欧州連合の基本権	70	27
V. 州憲法の基本権	73	30

第 4 章	基本権の機能	80	33
I.	基本権の古典的な機能	80	33
1.	消極的地位	81	33
2.	積極的地位	83	34
3.	能動的地位	89	35
4.	制度的保障	94	36
II.	基本権の客観法的機能	97	37
1.	消極的権限規範としての基本権	97	37
2.	客観的な価値決定としての基本権	100	37
3.	自由国家から社会国家へ	101	38
4.	理論的・解釈学的発展	103	38
III.	保護機能	107	40
1.	基本権適合的解釈	107	40
2.	配分による保護	110	41
3.	危険からの保護	116	43
第 5 章	基本権の権利資格と基本権による拘束	124	47
I.	基本権の権利資格	127	47
1.	すべての人の権利とドイツ人の権利	127	47
2.	出生前の基本権の権利資格と死後の権利資格	138	50
3.	基本権上の成年	143	52
4.	基本権の放棄	152	54
5.	集団および組織の基本権資格	163	56
II.	基本権による拘束	187	62
1.	拘束の種類	187	62
2.	国家に対する基本権の拘束	188	62
3.	私人に対する基本権の拘束(第三者効力)	196	65
4.	国際的視点からみた基本権拘束	209	69
5.	基本義務?	217	71
第 6 章	基本権の保障と基本権の制限	220	74
I.	保護領域と保障	220	74
II.	介入、制限その他類似する概念	230	76

1. 介入、制限、制約、干渉、縮減、限定	231	76
2. 内容形成と具体化	233	77
3. 規律	243	79
4. 侵害 (Antastung)	244	79
5. 侵害 (Verletzung)	245	80
III. 保護領域と介入	247	80
1. 保護領域の確定	252	82
2. 介入の確定	259	83
IV. 介入に対する憲法上の正当化	271	85
1. 法律の留保の種類	271	85
2. 法律の留保から議会の留保へ	279	86
3. 法律の留保から比例的な法律の留保へ	288	89
4. 制限に対する制限	293	90
V. 衝突と競合	336	102
1. 衝突	336	102
2. 競合	355	105
付説 構造図式	367	108

第2部 基本権各論

第7章 人間の尊厳の保護 (1条1項)	373	115
I. 概観	374	115
II. 保護領域	378	116
III. 介入	389	119
IV. 憲法上の正当化	397	122
第8章 人格の自由な発展 (2条1項)	401	125
I. 概観	402	125
II. 保護領域	403	126
1. 一般的行為自由	403	126
2. 一般的人格権	408	127

III.	介 入	421	132
IV.	憲法上の正当化	426	133
1.	憲法的秩序	427	133
2.	他人の権利	429	134
3.	道 徳 律	430	135
第 9 章	生命と身体の不可侵性に対する権利 (2条2項1文)	435	137
I.	概 観	436	137
II.	2条2項1文の防御権	438	138
1.	保護領域	438	138
2.	介 入	440	139
3.	憲法上の正当化	443	140
III.	2条2項1文の保護義務と保護請求権	454	142
1.	理 由	454	142
2.	履 行	455	143
第10章	人身の自由 (2条2項2文、104条)	460	146
I.	概 観	461	146
II.	保護領域	463	147
III.	介 入	466	148
IV.	憲法上の正当化	469	149
1.	104条の法律の留保	469	149
2.	制限に対する制限	476	150
第11章	平等の要請 (3条、6条1項・5項、33条1～3項、38条1項1文)	481	154
I.	概 観	482	154
II.	不平等取扱い	485	156
1.	憲法上問題となる不平等取扱い	485	156
2.	本質的に等しくないものの平等取扱い?	491	158
III.	憲法上の正当化	493	158
1.	一般的要請	493	158
2.	3条2項および3項による特別の要請	503	163
3.	6条からの特別の要請	518	169

4. 政治的権利に関する特別の要請	520	171
5. 公民の権利、義務に関する特別の要請	530	174
IV. 平等違反の効果	539	178
1. 法律、法規命令、条例・内部規則による平等違反	539	178
2. 行政および司法による平等違反	553	182
付説 構造図式	562	186
第12章 宗教、世界観、良心の自由 (4条、12a条2項、ワイマール憲法136条1項・3項・4項、137条2項・3項・7項と結びついた140条)	565	188
I. 概 観	566	188
1. 条文の文言	566	188
2. 統一的な保護領域?	569	189
II. 保護領域	572	190
1. 宗教、世界観の自由	572	190
2. 良心の自由	588	196
III. 介 入	593	197
IV. 憲法上の正当化	599	200
1. 140条と結びついたワイマール憲法136条1項、3項2文、137条3項1文	600	200
2. 12a条2項	604	201
3. 衝突する憲法規定	605	201
第13章 意見、情報、プレス、放送、フィルムの自由 (5条1項、2項)	610	205
I. 概 観	611	205
II. 保護領域	615	206
1. 意見の自由 (5条1項1文前半部)	615	206
2. 情報の自由 (5条1項1文後半部)	627	210
3. プレスの自由 (5条1項2文第1句)	632	212
4. 放送の自由 (5条1項2文第2句)	639	214
5. フィルムの自由 (5条1項2文第3句)	646	217
III. 介 入	647	218
1. 意見、プレス、放送およびフィルムの自由	647	218
2. 情報の自由	649	218

IV.	憲法上の正当化	651	219
1.	制 限	651	219
2.	検閲の禁止（5条1項3文）	674	227
第14章	芸術および学問の自由（5条3項）	679	230
I.	概 観	680	230
II.	保護領域	682	231
1.	芸術の自由	682	231
2.	学問の自由	693	235
III.	介 入	700	237
IV.	憲法上の正当化	704	238
第15章	婚姻・家族の保護（6条）	708	241
I.	概 観	709	241
II.	防 御 権	712	242
1.	保護領域	712	242
2.	介 入	724	247
3.	憲法上の正当化	730	249
III.	差別禁止、保護請求権および配分請求権	743	253
第16章	学校に関する基本権および私立学校の自由（7条2～5項）	748	257
I.	概 観	749	257
II.	学校に関する基本権（7条2項および3項）	750	258
1.	保護領域	750	258
2.	介入と憲法上の正当化	757	260
III.	私立学校の自由（7条4項および5項）	758	260
1.	保護領域	758	260
2.	介入と憲法上の正当化	765	262
第17章	集会の自由（8条）	769	265
I.	概 観	770	265
II.	保護領域	771	265
1.	集会の概念	771	265
2.	平穏かつ武器を持たないこと	778	268

3. 閉じられた空間での集会および屋外での集会	786	270
4. 保障の範囲	788	271
III. 介 入	789	271
IV. 憲法上の正当化	791	272
1. 制 限	791	272
2. 届出義務および許可〔を得る〕義務の禁止	797	274
第18章 結社および団結の自由（9条）	800	277
I. 概 観	801	277
II. 保護領域	804	278
1. 一般的結社の自由	804	278
2. 団結の自由	817	281
III. 介 入	824	284
1. 一般的結社の自由への介入	824	284
2. 団結の自由への介入	826	284
IV. 憲法上の正当化	828	285
1. 一般的結社の自由	828	285
2. 団結の自由	838	287
第19章 信書・郵便・電気通信の秘密（10条）	847	291
I. 概 観	848	291
II. 保護領域	851	292
1. 信書の秘密	851	292
2. 郵便の秘密	855	293
3. 電気通信の秘密	859	294
III. 介 入	862	295
IV. 憲法上の正当化	869	297
1. 10条2項1文の法律の留保	869	297
2. 10条2項2文による法律の留保の拡大	872	298
第20章 移転の自由（11条）	876	301
I. 概 観	877	301

II.	保護領域	878	302
1.	滞在および居住	878	302
2.	住所変更のための移動	883	303
3.	入国、国内移住、外国旅行、外国移住	884	304
4.	個人の持ち物の携行	888	305
5.	消極的移転の自由	889	305
III.	介入	890	306
IV.	憲法上の正当化	892	306
1.	基本法11条2項の法律の留保	892	306
2.	その他の介入の正当化	893	307
第21章	職業の自由 (12条)	896	309
I.	概観	897	309
1.	条文の文言	897	309
2.	統一的な保護領域	899	310
II.	12条1項の防御権	900	311
1.	保護領域	900	311
2.	介入	917	317
3.	憲法上の正当化	937	322
III.	12条1項の保護請求権と配分請求権	956	328
IV.	労働強制と強制労働からの自由 (12条2項および3項)	960	330
1.	保護領域	960	330
2.	介入と憲法上の正当化	961	330
第22章	住居の不可侵 (13条)	966	334
I.	概観	967	334
II.	保護領域	968	334
III.	介入	974	336
1.	捜索	975	337
2.	盗聴工作	977	338
3.	その他の介入	978	338
IV.	憲法上の正当化	980	339
1.	捜索	980	339

2. 盗聴工作	984	340
3. その他の介入	986	341
4. その他の介入の正当化	990	342
第23章 財産権保障 (14条、15条)	993	344
I. 概 観	994	344
II. 保護領域	1000	346
1. 財産権の概念	1000	346
2. 財産権保護の範囲	1013	350
3. 相続権	1020	351
III. 介 入	1021	352
1. 内容・制限規定	1021	352
2. 収 用	1023	353
3. その他の介入	1026	354
IV. 憲法上の正当化	1029	355
1. 内容・制限規定	1029	355
2. 収 用	1039	359
3. その他の介入	1049	362
V. 制限に対する制限としての制度保障	1055	365
VI. 社 会 化	1057	366
付説 構造図式	1061	368
第24章 国籍剥奪および外国への引渡しに対する保護、庇護権 (16条、16a条)	1063	370
I. 概 観	1064	370
II. 国籍剥奪からの保護 (16条1項)	1067	371
1. 保護領域	1067	371
2. 介 入	1068	372
3. 憲法上の正当化	1071	373
III. 外国への引渡しの禁止 (16条2項)	1075	374
1. 保護領域	1075	374
2. 介 入	1076	374
3. 憲法上の正当化	1079	375

IV.	庇護権 (16a条)	1080	375
1.	保護領域	1080	375
2.	介入	1097	382
3.	憲法上の正当化	1098	383
第25章	請願権 (17条)	1107	388
I.	概観	1108	388
II.	保護領域	1109	388
1.	請願の概念	1109	388
2.	請願の名宛人	1111	389
3.	内容に関する許容条件	1112	389
4.	実質的な回答を求める請求権	1115	390
III.	介入および憲法上の正当化	1116	391
第26章	権利保護保障 (19条4項)	1120	393
I.	概観	1121	393
II.	保護領域	1123	394
1.	公権力	1123	394
2.	権利侵害	1127	396
3.	出訴手段の提供	1134	397
III.	介入	1139	400
IV.	憲法上の正当化	1141	401
第27章	抵抗権 (20条4項)	1144	403
第28章	職業官吏制の伝統的諸原則への配慮 (33条5項)	1151	406
I.	概観	1152	406
II.	保護領域	1153	406
III.	介入と憲法上の正当化	1156	408
第29章	選挙権 (38条)	1159	410
I.	概観	1160	410
II.	直接選挙、自由選挙、秘密選挙の権利	1161	411
1.	保護領域	1162	411

2. 介 入	1172	415
3. 憲法上の正当化	1180	417
第30章 法律の定める裁判官の裁判を受ける権利 (101条1項2文)	1183	419
I. 概 観	1184	419
II. 保護領域	1185	420
1. 裁判官の法律上の権限	1185	420
2. 裁判官の独立	1189	421
III. 介 入	1191	421
1. 立法府による剥奪	1192	422
2. 執行府による剥奪	1194	422
3. 司法府による剥奪	1195	423
IV. 憲法上の正当化	1199	424
第31章 法的審問を請求する権利 (103条1項)	1202	427
I. 概 観	1203	427
II. 保護領域	1204	427
1. 法的審問	1204	427
2. 裁判所において	1208	429
III. 介 入	1209	430
IV. 憲法上の正当化	1210	430
第32章 罪刑法定主義 (103条2項)	1213	432
I. 概 観	1214	432
II. 保護領域	1215	433
1. 可罰性の概念	1215	433
2. 行為主義	1219	434
3. 法律主義	1220	434
4. 明確性原則	1221	435
5. 遡及効の禁止	1225	436
III. 介 入	1227	436
IV. 憲法上の正当化	1228	437

第 33 章 二重処罰の禁止 (103条3項)	1231	439
I. 概 観	1232	439
II. 保護領域	1235	440
1. 同一の行為	1235	440
2. 一般的刑法	1239	441
3. 一度限りの刑事訴追	1244	442
III. 介入と憲法上の正当化	1246	443

第**3**部 憲法訴願

第 34 章 憲法訴願について的一般論	1249	447
第 35 章 憲法訴願の適法性 (訴訟要件)	1254	449
I. 訴願提起者	1255	449
1. 訴願能力	1255	449
2. 訴訟能力	1256	449
II. 訴願の対象	1258	450
III. 訴願の当事者適格	1261	451
1. 基本権侵害の可能性	1262	451
2. 自己の苦痛	1270	453
3. 現在の苦痛	1276	454
4. 直接の苦痛	1279	455
IV. 権利保護の必要性	1281	456
1. 出訴手段の完遂	1282	456
2. 補 充 性	1288	457
3. 出訴手段の完遂および補充性原則の例外	1289	458
V. 既判力による訴願阻止	1293	459
VI. 訴願の形式的適法性	1295	460
1. 形 式	1295	460
2. 出訴期間	1296	460

3. 撤 回	1297	461
第36章 憲法訴願の認容理由	1298	462
I. 基 準	1298	462
II. 特別な憲法侵害への審査範囲の制限	1304	463
1. 問 題	1304	463
2. 解 決	1307	464
ドイツ連邦共和国基本法(抄)	469	
連邦憲法裁判所法	488	
訳者あとがき	519	
邦語事項索引	523	
独語事項索引	547	